

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について（小学校）

1. 教科別学力状況

国語 A（知識）

成果としては、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の領域については、よく理解できている。話すこと聞くこと・書くこと・読むことに苦手さが見える。国語への関心・意欲・態度と話す・聞く能力について十分身についているとは言えない。国語の授業改善と学習習慣のさらなる改善が必要。

国語 B（活用）

成果として、目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話すことや、文章を読み登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることはできている。

書くこと・読むことの領域で、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読み、必要な内容を整理して書くことに課題があり、記述式の問題については苦手さが見える。

算数 A（知識）

昨年度の秋のステップアップテストと比べて十分理解できている児童が増えてきた。

量と測定は、理解できていない児童が半数以上あり、計算問題でのケアレスミスに加えて、小数の乗法・除法が十分理解できていない児童がいる。

算数 B（活用）

計算はできているが、きまりや比較などに苦手さが見える。

記述式の問題に対して苦手な児童がおり、また 4 領域の中では図形が苦手な児童が見られる。

問題を解くのに時間がかかり、時間内に全問題をとくことができない児童がいる。

2. 学力状況に関する今後の取組

国語

記述式の問題に慣れさせ、書くことを意図的に取り入れた授業を行ない、書くことへの抵抗感をなくしていく。日頃から読書時間を確保し、読書量とともに読書の質を高めたいけるようにする。基礎基本の徹底、ドリルなどの反復練習を行ない基礎的な知識の習得をさせる。報告分や感想文などの目的や条件に応じて様々な文章を書く機会を充実させていく。

算数

数量や図形についての知識や理解を高め、問題の基礎基本の正答率を上げるため、基礎的な知識・理解について、既習内容の振り返りをしっかり行ない、間違いをそのまま

にせず、直しをきちんとさせる。

理解が難しい児童には、段階を踏んで丁寧な指導をする。また、問題を早く解ける児童には、応用問題など発展的な問題をさせる。

記述式の問題に抵抗がある児童が多いので、考え方を記述式で解答する仕方を授業の中でも取り入れ、慣れさせていく。

3. 児童の学習状況

教師との信頼関係はできている。話し合い活動に関する事項は比較的よくできている。5年生までの学習活動を肯定的に捉えており、国語・算数ともに大切だと思っている。

自尊感情が低い児童が多く、達成感・成就感が低い。家庭での学習の時間や読書時間が少ない。読書が好きな児童は多いが、図書室や図書館を利用している児童が少ない。原稿用紙3枚程度の文章を書くこと、自分の考えを他の人に説明したり文章を書くことが難しいと感じている児童が多い。

家の人とのコミュニケーションが少ない児童が多い。

4. 児童の学習状況に関する今後の取組

テレビを見る時間を少なくして学習時間を少しでも確保していくことや生活習慣の改善と家族とのコミュニケーションの時間の確保など、家庭の連携を呼び掛けて行く。

家庭学習の重要性を児童に指導し家庭学習の内容や学習の仕方を教えて行く。

具体的な短期目標をもたせ主体的に取り組みさせていけるよう指導していく。

5. 学力向上プランの中間期見直し

『基礎基本の定着をめざして』のめあての達成に向けて、根気強く指導していく。TT指導では座席表を用いて、個々の児童の学習の様子を継続的に記録し観点別評価にいかすとともに、個別指導では二極化に対応して、役割分担を明確化する。漢字・計算を確かなものにするために朝の活動や自主学習を充実させる。

授業でペアやグループ学習、全体での話し合いによる学習の中で、考え方や話し合ったことを記述させる。行事・集会等での振り返りを日記や作文など文章にまとめる機会をとり、自分の考えを明らかにさせる。

学校での学習内容を家庭で復習する時間をとり、自主学習の内容をレベルアップさせていくとともに、家族からの家庭学習に対する励ましの機会を増やし、意欲化につなげる。理科や社会科などの夏休みの自由研究や生活科や総合学習の発表会を行い、自分で課題を発見し、いろいろな調べ方で調べ、問題を解決していく学習の楽しさや意義を理解させる。聞き手は目的や意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめ、興味を持たせていく。